

日本人学校・
補習授業校を
応援します!

在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業

AG5 合同研究会 ダラスからつなぐ！ 補習校の輪

(写真左から) ダラス補習授業校 副校長 佐々木常広 小4教諭 バーバー悦子 小3教諭 長本玲子 小6教諭 佐藤恵美



真夏の太陽が照りつける8月12日、AG5補習校チームから専門委員の岡村郁子氏と近田由紀子氏を迎え、ダラスで「AG5合同研究会」が実施されました。この研究会は「テレビ会議」の形で行われ、遠隔地よりWEBで参加された先生方もいます。

昨年よりも参加者の人数と参加の仕方が広がった今年の合同研究会について、ワークショップや学年懇談会でファシリテーターを務めた私たちが振り返ってみました。

八月合同研究会のワークショップについて

佐藤 今回のワークショップでは、研究会に参加していただいた先生方がすぐに現場で試せるアクティビティを紹介したいと思いました。昨年から今年にかけて行った小六の授業の中から、子どもたちの様子を思い返してみても、子どもたちの反応が良く、効果的だと思つたものを選んでみました。

長本 今回は「説明文を書くための単元」で実践したアクティビティを紹介しましたが、これらは物語文の単元で内容を深く理解するための手立てとしても使えます。単元に応じてアクティビティの活用の仕方が広がることを多くの先生方に知っていただきたいと思つていました。

バーバー 授業で何か新しい取り組みをしたときに、紙面でその方法を讀んだだけでは、一体どういうアクティビティになるのか、想像がつきにくいことがあります。今回は、子どもが主体的に取り組めるアクティビティを先生方に実際に体験してもらうことで、その方法を理解していただければと思つていました。

また私自身も、今まで実践してきた自分の指導法を振り返ること



で、授業中に子どもたちがどのように目標に向かって活動に取り組んでいくかを改めて考える機会にしたいと思つていました。

佐々木 それぞれのワークショップで紹介し、先生方に体験してもらつた活動は、実践した学年だけのものではなくて、他の学年や違う単元でも活用できるというところがポイントですね。

佐藤 私も昨年の小四で実践された「サイコロQ&A」を小六の単元でやってみたところ、子どもたちがとても興味を持って取り組み、グループ交流の場で発言が活発になりました。やり方の基本を知っていると、自分が担当している子どもたちに合わせてアレンジして活用することができます。

佐々木 そういえば、今年の小二の

研究授業では「書く単元」をしていましたが、ここでは他の学年で有効だった授業プランを、小二用に変えて行っていましたね。

バーバー 今回のワークショップでは高学年の単元で実践したアクティビティを紹介しましたが、その中から別の学年にフィットするものを探していくと、指導スタイルが広がっていきます。

すぐに役立つ授業技術ワークショップ	
A (担当：バーバー)	<ul style="list-style-type: none"> ジグソー法を用いたグループワークの学習活動 クイズ形式(ジョパティークイズ)による情報発信の学習 導入の工夫(サイコロQ&A)と短冊作文でモニタリング
B (担当：佐藤)	<ul style="list-style-type: none"> 創作アフレコを用いた学習活動(小6単元「鳥獣戯画」) 本文の内容に沿ったクイズオリエンテーリングの指導法 ビブリオバトル(書評合戦)の実践方法
C (担当：長本)	<ul style="list-style-type: none"> リレー作文の形式やワークシートを活用した作文指導 「紙芝居型」本文を用いた文章構成理解の指導法

長本 実際にそうやってアレンジを
していくことは大変なのですが、
「大変でもやってみよう」とい
う先生は本当に偉いと思います。

佐々木 ワークシヨップで学んだア
クティビティーや他の学年の研究
授業を、自分の担当学年の指導に
どうやって生かせるか、どこを使
えるかを考えていくことは大切で
すね。

長本 紹介したアクティビティーを
活用してもらうためには、「前の
学年で何をやってきたのか？」も
大切だと思います。ダラス補習授
業校でいえば、昨年のAG5の小
四の授業でスピーチ活動に慣れて
いる子どもたちを受け持つとす
ると、既に身に付けたスピーチ力
ベースにして、更にその力を発展
させることができます。

バーバー 教科書も学年ごとにそう
やって段階を追っているのです、そ
れぞれの学年に合ったアクティビ
ティーを探していただけるとうれ
しいですね。

佐藤 そうやってアンテナを張りな
がら、ワークシヨップなどの研究
会に参加していただけると、収穫
が多いと思います。

バーバー 今までは授業見学の校内
研究はありましたが、その時には
見学のポイントや学んだことを自
分はどう取り入れたら良いかが分

からず、あまり研究の成果が広が
りませんでした。今回はフアシリ
テーターとしてワークシヨップを
しましたが、他の先生方の反応を
見ながら意見を聞くことができた
ので、自分にとっても実りの多い
研究となりました。

佐々木 学年によって異なる到達目
標があります。紹介した活動のア
イデアを違う学年で使った時には
「その学年の子どもたちを対象と
してどこまでできたか」などのフ
ィードバックをいただけると、今
後の参考になりますね。

**昨年今年と、ダラスで合同研究
会を実施してみよう**

佐々木 今回やってみて一番有益だ
ったと思うのは、先生方に「こん
なやり方があるんだ」と、新しい
指導の方法があることに気づいて
もらえたことですね。私も日本で
長いこと教壇に立つてきましたが、
今、こうしてAG5の研究活動に
携わってみると、自分自身も遅れ
ていると感じています。特にダラ
ス補習授業校を考えた時に、昔は
このような研修会がなかったので、
先生方が学びたくても学べる機会
がない状況でした。それに補習授
業校に勤務する先生の中には、平
日に仕事を持っている方も多いの
で、そういった指導法を勉強する

時間をなかなか取れないのも事実
です。そうやって考えると、今や
っている研究は自分たちが受けて
きた教育以外の新しいスタイルを
知る良い機会だと思います。これ
からは、子どもたち自身が「自分
で考える力」を養っていきける授業
を実践していくことが大切です。

バーバー 私は二年前にダラス補習
授業校でAG5の取り組みが始ま
った時から研究授業に携わってい
ます。その時からずっと小四の指
導をしているので、三年目の今年
は子どもが主体的に学べる授業ス
タイルを取り入れることに慣れて
きて、楽に進められています。新
しい指導法に挑戦する時は、最初
の一步が大変ですが、それを繰り返
返して経験を積んでくると、新し
い指導の仕方の下地ができてきま
す。

佐々木 特に今年八月の合同研究会
では、テレビ会議システムのほか
でより多くの先生方が公開授業
や研究会に参加してくれるように
なりました。これは今年の大きな
収穫のひとつです。

バーバー いろいろな地域からの先
生方がいらしていました。ダラス
補習授業校の先生も多く参加して
いて、この研究会をきっかけにお
互いが仲良くなることができました。

佐藤 そうですね、一度、直接お互
いの顔を見て話せる機会があると、
その後がメールやWEB会議など
でつながりやすいですね。教えて
いる学校は違っても、補習校の教
員として同じような悩みを抱えな
がら、それでもがんばっている
というのが分かり、親近感がわか
りますね。

佐々木 確かに、この研究会がき
っかけで、その後、メールでのやり
取りができるようになった先生方
もいらっしやいます。

バーバー 研究会に参加した後に、
「じゃあ、私もやってみよう」と
とAG5の研究授業と同じ授業活
動案で授業をやってくれている先
生方もいらっしやいますね。先日、
小四のWEB学年会にミネアポリ
ス補習授業校の先生が参加されて、
その後、授業実践までしてくださ
いました。また、WEB学年会で
検討した授業活動案を先に自分の
学校で実践してフィードバックし
てくださった方もいました。

長本 いろいろな学校の先生方が実
施した学習活動案やちよつと手直
しをしたワークシートなどを寄せ
ていただいて、AG5のサイトで
公開してもらえると、私たちも勉
強になりますね。

ダラス補習授業校でAG5が始まってからの一年半を振り返って

長本 子どもが「お客さん」になつてしまつような「受け身の授業参加」が減りました。今は、「学びの意欲」を持つて、積極的に授業に取り組むようになりましたね。

佐藤 私が去年担当した小六の保護者の皆さんからは、「日本の学校でも受けられないような新しいスタイルの授業を補習校で受けることができて幸せです」とか「会社で必要とされているプレゼンテーションの力が身に付く授業で素晴らしいと思います。日本人はそういう分野が苦手なことが多いと、会社勤めしていると分かるので、子どもたちでもこんなにちゃんとグループ活動ができると分かり感心しました」など、とても好意的なフィードバックをいただきました。

長本 私も、思っていた以上に保護者の協力がすごいことを感じました。宿題のワークシートの手伝いや単元の成果発表会を見に来てくれるなど、多くの協力をいただきました。そうやって子どもたちの学習に関わつてもらえた分、保護者の皆さんが「どうやって我が子に勉強させたら良いのか？」というところが、以前より明確になつてきている印象があります。

バーバー まさに「家庭で親も子ども燃える」状況ですね。親御さんの協力が得られて、とても良いですね。

長本 今年、担当した小三のAG5の授業でも、「いつもの作文より楽しかった」という声が多かつたですね。

佐々木 今までのように「はい、書きなさい」という授業でなくて、子どもたち自らが「どうやって書くのかな？」と考えるステップを踏み、その後を書く段階へ進んだのが良かったのではないのでしょうか。

長本 子どもたちが考えてブレインストーミングでしっかりと話した後に書くので、「スラスラ」としゃべるように書く作文」になって、「目的に応じた構成・表現」で書ける子が増えてきました。子どもたちが常に動かないといけないので、普段から気を抜けない授業になつてきました。

佐々木 日本語力に課題があり、今まで「お客さん」になりがちだった子どもたちが、今行っているグループでのブレインストーミングなどの場面では、自分の日本語力に応じた話し方で参加ができるということが分かつてきています。

長本 単元終了後の自己評価シートを見ると、「できた」の欄に○が増

えているので、達成感が高まつた子どもたちが増えてきたのが分かります。子どもたちの学びの姿勢も授業のスタイルも変わつてきました。

佐藤 補習授業校の授業日は年間であつた四十日しかないのに、一時間一時間の授業のクオリティーを上げて、がんばつて登校して来ている子どもたちの力をつけてあげたいですね。

長本 日本だと学校でドリルもやる時間があります。しかし、補習校ではそれらはすべて宿題になります。補習校の授業では、学校でできないことをよく考えてやらせたいと思います。

佐藤 ダラス補習授業校内では従来の「先生が教えるスタイルの授業」ではなくて、「何を子どもたちにさせるのか？」や「子どもたちが何をできるようにするのか？」の「子ども主体の授業」が広まつてきていますね。

今後、補習校同士でどのようにつながっていききたいか

佐々木 例えば、土曜日放課後にダラス補習授業校の校内研究会を行つて、それらを他校の先生方へWEB中継できたら、他校からも自由に参加してもらえて良いと思います。今は、ダラス補習授業校だ

けでやっている校内研究会ですが、そこに良い意味での「横入り」な感じで他校の先生方にも参加してもらおうイメージです。

バーバー そういうWEB研究会を、新しい単元指導に入る前にやって、いろいろな先生方から指導法について意見を出してもらうのも良いですね。

佐藤 確かに、授業後の放課後の時間を活用して、他校からもWEBで参加できる先生方に入つてもらふようにすると、遠隔地の補習校間でもつながっていきそうですね。自分ひとり新しい単元の教え方を悩むよりも、校内や他校の先生方とアイデアを出し合うことで、より豊かな授業活動案を作ることができそうですね。

佐々木 振り返つてみると、今のようなWEB会議の形式で、会議や授業を見たりすることに関して抵抗が少なくなつてきたのは、今年八月の合同研究会がきっかけでしたね。そこがいわゆるターニングポイントだった気がします。

バーバー そうですね、WEB会議を重ねることに参加してくださる先生方の数が増えていてうれしいですね。補習校の先生方の結びつきが広がっています。WEB会議でお互いの顔を見られるのも、同志としての親近感が増していく理

由のひとつです。

佐々木 今年の十月、低学年の学年研究会での公開授業を初めてWEBで中継した際もとても好評でした。きつと「へえ、こんな授業をしているんだ」という臨場感があつて良かったのだと思います。

長本 そう思っていただけなら、八月の合同研究会へ会場参加やWEB参加してもらえたのがきっかけで、これだけの先生方に関心を持ってもらえるようになりました。

佐藤 やはり「実際の授業」を見られることは刺激にもなるし、学べる場所が大いにあります。普段の補習校ではとにかく自分の授業をすることに忙しくて、校内でも他の先生方の授業を見学できる機会とはほとんどありません。

長本 これからは、アメリカだけでなく他の地域でも授業公開があれば、ぜひ見せていただきたいと思っています。そうすると、どんどん補習校の輪が広がっていきます。

全員 一昔前なんて、こんな交流の仕方は考えられなかったですよ。一方通行でなく、双方向の交流をしたいですね。「公開授業→授業のフィードバック→授業者はそれを知る→そして更に効果的な活動案をまた考える」という流れがで

きると良いです。他校の先生方からも指導の事例を紹介してもらい、ダラス補習授業校の実践と合わせていくと、倍にもその倍にもアイデアがふくらんでいきます。交流がどんどん活発になっていくのが楽しみです。

最後に

現在もダラス補習授業では、さまざまな学年において研究授業が行われています。補習校ならではの授業スタイルを工夫し続けることにより、それぞれの子もまた目指す目標に少しでも近づけるよう努力を続けていきます。

今後、本校での研究授業での成果を世界中の補習校の先生方と共有することにより、先生方にとっても、子どもたちにとっても「お互いに支え合える」補習校ネットワークを広げていければと思います。時間と場所を超えて、補習校同士でつながっていきましょう！

* * * * *

◆研究会に参加した先生方の声

ワークシヨップ

・実際の授業と同じスタイルでやっていたとき、子どもの立場になって考えることができた。サイコロゲームや短冊は楽しかったので、自分の授業でも使ってみよう。

・AG5授業を実際にやってみて、子どもたちの気持ちがよく分かった。

・普段子どもたちがどんな気持ちで授業に臨んでいるのかを考えることができた。

・物語を再生する力、説明する力がつくことを、自分が体験して実感できて良かった。

・自分では考えもつかないような方法や実践の方法を聞くことができて、とてもためになった。

・学年をまたがって使用できる方法もたくさんあり、今後の活動に生かしたいと思った。

・実践を詳しく教えていただき、やる気がわいてきた。

・ワークシートやアイテム、または指導法が新学期からすぐに活用できるものばかりだった。

〈懇談会〉

・中学校の話し合いで、他校の様子を知ることができた。

・今回、各国や各州からの先生方の話を聞き、アイデアの共有ができたことをうれしく思った。これからも定期的に、このような場を作っていたきたい。

・他校の先生方やダラス補習授業校の先輩先生方から、いろいろな話を聞くことができ、自分の学級経営に生かすことができると思った。

・意見やアイデアを交換でき、とても参考になった。

〈今後の展望〉

・参加される先生方の人数が増えてきて、話し合いも活発になり良いと思った。

・全体的に素晴らしい研究会で、毎回参加の先生方が増えているのでうれしい。

・補習校教員の授業実践を通しての交流は、学ぶことが多くとても良いと思うので、来年も行って欲しい。

・研究会のこの場の雰囲気、ぜひ世界中の補習校へ広げられたらと思う。

・このような研究会はとても勉強になるし、モチベーションも上がると思った。

・AG5のワークシヨップをローカルなレベルでやって欲しい。

・ダラス補習授業校の授業実践は、それぞれの補習校の実態に合わせて調節しながら活用できるものなので、多くの補習校に広めたい内容だと思った。

・教材や学習活動の内容を今後も広げてもらいたい。AG5の活動を知らない先生方がまだまだ大勢いる。

・WEB参加が可能な研究会は、いろいろな地域の先生方との交流を可能にするので、今後も続けてもらいたい。